

敗北逆アナルEND3 スライムクイーンに負けてお持ち帰りされた冒険者くんは孕み卵袋に堕ちて……

・シーン01

／位置…正面 近め

「あ、気がついたー」

「人間さん、思ったよりも弱かったから加減できなくて死んじやったと思ったよー」

「ふえ？ 私？ わたしはー、スライムクイーンって言うんだよー」

「ふふふ、他の人間さんたちも居るけどおー、最初は一緒にするとうるさいからべつべつに、ね」

「んー？ 食べないよー？ お肉はもっと小さいのでいいからー」

「人間さんたちは卵袋にちょうどいいからー、そっち」

「卵袋は卵袋だよー？」

「人間さんたちが私の子供たちみーんなつぶしちゃったから」

「大丈夫、また増やせばいいのー、ふふふ、人間さんたちはびったりなのー」

「前の子たちは洞窟で産んだからよわよわー、人間さんたち卵袋に産むと私みたいにつよつよー」

「男？ オス？ 関係ないよお？ 人間さんのメスの卵産むところはちっさくて使えないからねー」

「ここ、私の卵にちょうどいいの♡」

「ふふふー、大丈夫。初めてだけどやり方は知ってるからー♡ 上手に卵袋にしてあげるね」

（服を溶液で溶かす）

／位置…正面 近め

「着てるの邪魔だからー、ぜーんぶ溶かしちゃおう」

「怪我はさせないからねー、安心していいよ」

「すぐに終わるからねー」

（全身舐め）

／＼位置…正面 近め

「ふふふー、綺麗に全部溶かしたね。人間さんのからだー、全部なめなめするねー、ちゅう」

／＼位置…正面 密着

「じゅぐっ、じゅるっ、ちゅりゅちゅくっ…じゅぶりゅっ、じゅぶじゅぶ…ん」

「じゅぶちゅるっ、ちゅむっ…ちゅっ、じゅっちゅっ、じゅぶじゅぶじゅっ…」

「ぐぷっ、ぐぷちゅっ、ぐちゅぐじゅっ、んう…」

／＼位置…正面 密着 ↓ 正面下（首／＼胸あたりの位置） 近め に移動しながら

「じゅっ、じゅるじゅっ、ずぷっ…」

／＼位置…正面（首／＼胸あたりの位置） 近め

「ぐじゅるっ、じゅむちゅっ、じゅるっ、じゅっ」

「じゅぶりゅっ、ぬりゅっ、ん、ぬちゅぬりゅりゅっ、ぐぶじゅっ、ぐっぷっ、じゅるっ」

「ちゅっ、ちゅるちゅぶっ、ちゅっぐっ、ぬちゅっ、ぬりゅっ、ぬちゅぶりゅっ、じゅぶ」

／＼位置…正面（首／＼胸あたりの位置） 近め ↓ 正面下（フェラの位置） 近め に移動しながら

「じゅっ、じゅるちゅっ、じゅぶっ、じゅぐっ、じゅっ、じゅるじゅるじゅる…」

／＼位置…正面下（フェラの位置） 近め

「じゅっ、ぐじゅ…じゅりゅじゅぐっ、じゅっ、じゅぶじゅぶ、ぐじゅるっ、ぬちゅっ」

「ぬりゅぬりゅ…ぬちゅぶっ、ぬりゅっ、じゅっ、じゅむじゅっ、じゅっぐっ、じゅぶりゅっ」

「ぬちゅっ…ぬちゅ…ぬちゅぶっ、ちゅるっ、ちゅりゅりゅっ、じゅっ、じゅぐりゅ…」

／＼位置…右側 密着

／＼演技指示…ささやき

「頭の中、くちゅくちゅかき混ぜて、幸せにしてあげるね、じゅるう…」

（脳みそクチュクチュ）

／＼位置…右側（両方） 密着

「ぬちゅるっ、ぐちゅっ、ぐちゅぐちゅるっ、ぬちゅっ、ぬりゅっ、ぬちゅちゅっ、くちゅるっ」

「じゅぬっ、じゅぶっじゅぶっじゅぶっ…じゅりゅりゅっ、じゅぶっ、ぐちゅっ…ぬちゆるっ」

「くちゅっ…くちゅぷりゅっ、ちゅっぐっ、ぬじゅっ…ぬじゅりゅっ、ぐじゅぷりゅっ」

「ぬちゅぬちゅっ、ぬじゅぶちゅっ、ぐじゅりゅっ、ぬじゅぶっ、ぬじゅぬじゅぬじゅ、じゅぷりゅ…」

「じゅっぐっ、じゅぶっ、じゅぶじゅぶっ、じゅりゅりゅっ、ぬちゅっ、ぬちゅぬりゅぬりゅ」

「ぷちゅぴっ、んっ…ぬじゅっ、ぬりゅぶちゅっ、ぐじゅぶっ、じゅるっ、じゅぶじゅぶじゅぶ」

「じゅぷりゅっ、じゅぶちゅぶっ、ぐじゅっ、ぬちゅぐちゅっ、んっ…じゅぶば…」

／＼位置…正面 近め

「ふふふー、人間さん、すっごい気持ちよさそうにしてたねー」

「くちゅくちゅされて、気持ちいいこと以外、どうでもよくなってきた？」

「どんどん作り変えてあげちゃうからねー」

「まずはー、中から卵袋用にぐによーんって伸びるように、いっぱい入るようにしてあげるー」

「人間さん用に生やしたふたなりチンポでー、アナルいっぱいズボズボするねー」

「大丈夫、気持ちよくなるように、そうなるように作り変えてるからー」

／＼位置…正面 近め ↓ 左側 近め に移動しながら

「安心して、受け入れてねー」

（逆アナル挿入開始）

／＼位置…左側 近め

「んっ…ああ、すっごいすっごい♡ ふたなりチンポ、簡単に飲み込んでいってるよー？」

「んっ、んっ…ふふふー」

「これなら根本まで、すぐに飲み込んだじゃうねー」

「ずぶずぶ…ずぶずぶ…ふふふー♡ どんどん、入っていつちゃってるよー」

「んっ…反応すごいねー、ずっと気持ちいいのー？」

「うんうん、人間さんの身体、とっても素直で、んっ♡ いい子が育ちそうー」

「…あ、一番奥まで届いたねー、ふふ、じゃあもつと、ズボズボして気持ちよくないただー」

（アナルピストン開始）

／＼位置…左側 近め

「ずぶずぶ…ずぶずぶ…ずぼずぼ…ずぼずぼー」

「ふふふー♡ 気持ちいいの、止まらないのー？ 締め付けもすごいよー？」

「ぎゅうぎゅう締め付けて、ふたなりチンポ、搾り取られてるみたいー」

「人間さんのおちんちんもー、ぴくん、ぴくん、って反応しちゃってるー」

「自分がズボズボされてるの、どうー？」

「初めてだよねー？ ちゃんと気持ちよくなれてるの、ビックリしてる？」

「ふふふー♡ たくさん感じちゃっていいからねー」

／＼演技指示…ささやき

「私が人間さんを、立派な卵袋にしてあげるからー、じゅるっ♡」

（逆アナル、速度アップ）

／＼位置…左側 近め

「んっ、もっと、いっぱい、動いて、いくねー」

「んっ、んんっ、あっ、あーっ♡ いい、いいねー♡ んっ♡」

「ズボズボしてあげると、んっ♡ すごい締めまるよーっ♡」

「これっ、このまま、ガンガン、突き上げて、とろとろの肉穴にしてあげる」

「んっ、んっ、んっ♡ あっ、あははっ、反応、すごいよー」

「ずぼずぼ、ずぼずぼ、ずぼずぼ♡ アナルに、ふたなりチンポ、突き刺されてー」

「いっぱい感じてるんだよねー」

「気持ちいい？ ふふふー」

「身体震わせてー、声、いっぱい出してー」

「気持ちいいことだけ、考えてたらいいよー」

「私もー、んっ♡ 人間さんの、ケツまんこでー、気持ちよくさせられてるからー」

「んんっ♡ このまま一回、出しちゃうねー」

（ラストスパート）

／＼位置…左側 近め

「んっ、んっ、んんっ♡ 人間さんの中にー、んっ♡ いっぱい、射精しちゃうねー」

「全部、全部、んっ♡ アナルに注いじゃうからー」

「あー♡ 人間さんのケツまんこでー、イっちゃいそうだよー」

「んっ♡ あっ♡ すごいすごい♡ ふたなりチンポ、すごい締め付けられてるー」

「すごい刺激だー」

「あー、もう出るよー♡」

「人間さんの中につ♡ 精子♡ 出るっ♡ 出るー♡」

「んっ、んんっ！ んんうううううっっ！！♡♡♡♡」

（アナルに中出し）

／＼位置…左側 近め

「あー♡ すごいすごい…んっ♡ ふふふー、ビクビクするの、止まらなくなっちゃったねー」

「アナル、ズボズボしながら、余分なモノは全部、分解して綺麗にしちゃってるからね」

／＼位置…左側 近め ↓ 正面 近め に移動しながら

「ふふふー」

（ふたなりチンポを主人公の顔に擦り付ける）

／＼位置…正面 近め

「射精したばかりだけどー、これくらいじゃまだまだ萎えないよー」

「今、目の前にあるおチンポが、さっきまで人間さんのアナルズボズボしてたんだよー」

「ふふふー、どうかなー？」

「お顔に擦り付けられて、興奮してきたー？」

「ぷにぷにしてるけど、バキバキなんだよー」

「今から、このふたなりチンポでー、人間さんのお口に入れちゃうねー」

「ちゃんと卵袋にするためにー、いっぱいズボズボしてあげるからー♡」

「はい、あーん♡」

（イラマチオ開始）

／＼位置…正面 近め

「ふふふー」

「どんどん、奥に入ってるよー」

「抵抗なんて、もう出来ないもんねー♡ はい、全部飲み込んでー♡」

「口だけじゃ収まらないからー、喉の奥も全部入れていくよー」

「んーっ♡ ふふっ♡ どんどん、入っていくねー」

「大丈夫、大丈夫♡ ちゃんとできてるよー」

「ふんふーん♪ アナルとはまた違って、ふたなりチンポ、全体をキュウキュウって締め付

けてるねー」

(ピストン開始)

／位置…正面 近め

「あー♡ すっごいこすれて、おチンポ気持ちいいよー」

「ふふふー」

「ズボズボされてー♪ 喉奥までー、深いところまで、ふたなりチンポ入れてー♪」

「お腹の中も全部、スライムを育てるためにー♪ もっと改造ー♪ 改造ー♪」

「ずぶずぶ♪ ずぼずぼー♪ ふふふー♪」

「人間さんの身体の方もー、私のおチンポに慣れてきたみたいだねー」

「私も、だいたい人間さんのこと、分かってきたよー♪」

「人間さんが大好きになってくれるように、もっと改造してあげるねー♪」

「ふふふー♪ 飲んだら気持ちよくなって、ぽかぽかになる精子を出してあげるねー♪」

「ほらほら、いっぱい注いであげるから、ちゃんと飲むんだよー♪」

「出すよー♪ もう、出るーんううっ！♡♡」

(口内射精、胃の中までたっぷり出す)

／位置…正面 近め

「ふー♡ ふー♡ あー♡ すっごい、いっぱい出てるー♡」

「あー…精子、逆流してきちゃった」

「全然収まりきらなかったねー」

「それでー、どうかなー？ 苦しかったー？ ふふふー、そんな訳ないよねー？」

「人間さんの身体ー、どんどん変わってきちゃってるからー」

「今はもう、身体がぼわぼわーってしてきてるんじゃないかなー？」

「頭の中もくちゅくちゅしたから、もうぜーんぶ、受け入れちゃうよねー」

「ふふふー」

「もう一度ー、後ろからズボズボしてあげたら…：…どうなるかな？」

(バックの体勢で、再度アナルにふたなりチンポを押し当ててるヒロイン)

／位置…背面 近め

「あー♡ すごいねー♡ 人間さんのアナル、ふたなりチンポ押し当てたら、ヒクヒク動いてるよ」

「当ててるだけなのに、入れられること、想像しちゃったー？」

／＼位置…背面 近め ↓ 右側 密着 に移動しながら  
「ふふふー、安心してねー」

／＼位置…右側 密着  
「絶対さつきよりも、気持ちいいからさー」

「人間さんの身体、私のおチンポ、受け入れたくてしょうがなくなってるはずだよー」

／＼演技指示…ささやき

「お腹の中も、さつき出したばかりの私の精液でいっぱいだもんねー」

「早く、ズボズボしてほしくて、堪らなくなってるんじゃないかなー？」

「人間さん用の精子、いっぱい中出ししてあげるね」

「そうしたら、人間さんも幸せー、私も幸せー」

／＼位置…右側 密着 ↓ 背面 近め に移動しながら  
「ふふふー、じゃあ」

／＼位置…背面 近め  
「一気に入れちゃうねー」

（バックで逆アナル挿入開始）

／＼位置…背面 近め  
「んんーっ♡ あー♡ すごいすごい♡ 一回めよりも、らくらく飲み込んでいっちゃうねー」

「ふふふー、すっごく気持ちいいんじゃないかなー？」

「んっくっ♡ あー、もう全部入っちゃったよー」

「人間さんのアナル、私のおチンポ根本まで飲み込んでるよー」

「いっぱい、動いてあげるねー」

（バックで逆アナルピストン開始）

／＼位置…背面 近め

「んっ、んうっ、うー、ふふっ、ふふふー」

「すごいすごい♡ ズボズボするたび、ケツまんこが…んっ♡」

「私のおチンポ、キュウキュウって締め付けて、気持ちいいよー♡」

／＼位置…背面 近め ↓ 背面 密着 に移動しながら  
「はあ、はあ、はあ、ふふふ」

／＼位置…背面 密着

「奥の方まで、おチンポ、突っ込んでー♡ お腹の中、ぐちゅぐちゅにされてるの、気持ちいいー？」

「気持ちいいよねー？ ふふふ、戸惑ってる振りしてもダメだからねー」

「人間さんの身体、もう、おチンポでズボズボされるのが嬉しくなるように、改造しちゃったからー♡」

「ずぼずぼ、ずぼずぼ♡ んっ♡ ぬぼぬぼ♡ ぐじゅぐじゅ♡」

「気持ちいいねー♡ 人間さんのおちんちんも、ずーっと勃起♡ しちゃってる♡」

「おチンポで、突き上げられて、んっ♡ 身体震えながら、感じちゃってるもんねー♡」

「ふふふー♡ あ♡ 人間さんのおちんちんから、我慢汁、垂れてきちゃってるよ」

「全然触ってないのに、おちんちん、イっちゃうの？♡」

「ふたなりチンポで、ケツまんこ、犯されて♡ イっちゃうんだねー♡」

「ふふ、ふふふふ♡ 気持ちよくなれて、偉いねー♡」

「人間さんの中に私がいっぱい精子出してあげたら、今より気持ちよくなるよね？」

／＼位置…背面 密着 ↓ 右側 密着 に移動しながら

「んっ♡ ふー、ふー、ふー♡」

／＼位置…右側 密着

「もっと、気持ちよくしてあげるね♡」

「お腹の中に、私の精子、いっぱい出して、人間さんのこと、もっと、もっと、感じさせてあげるー♡」

「んっ♡ はー、はー、はー、もう♡ 出すよー♡」

「あー♡ 出る、出るうっ♡ ケツまんこにっ♡ 精子、出るうっ♡」

「んっ♡ んんっ！♡ んんうううっっ！！♡♡♡♡」

（アナルに中出し、同時にところてん射精する主人公）

／＼位置…右側 密着

「はー、はー、はあ…ああ♡ すごい♡ んっ♡ 射精、止まんないよ♡」

「あ♡ 人間さんも、精子びゅっびゅって出ちゃった？ 気持ちよかったんだねー♡」

「ちゃんとイケてすごいよー♡ 人間さん♡」



「んっくっ♡ …ううっ♡ ちょっと抜いちゃうね…んんっ♡」

(無理やりアナルからふたなりチンポを引き抜き、全身に精子をぶっかけるヒロイン)

／位置…背面 近め

「あー♡ 精子♡ まだ、すっごい出てる…♡ んっ♡ はあ、はあ、はあ…♡」

「人間さんの身体、私の精子でドロドロになっちゃったねー♡」

「ふふ、ふふふー」

「あとは、卵を準備するだけー♡ 人間さんも楽しみ？ …あはは、とろとろ、とろけきった顔♡」

「きっと人間さんも気に入るから♡ ちょっとだけ、待っててねー♡」

## ・シーン02

／位置…正面 近め

「おはよー、人間さん。特製のスライムクッションでよく眠れたー？」

「ふふふ、人間さんを捕まえておくために作ったぷにの子だから、いくらもがいても逃げられないよー」

「うんうん、元氣元氣」

「卵袋が元氣だといっぱい産めるからねー」

「あ、そうだった、人間さんは毎日3回餌を食べないといけないんだったね」

「うーん、昨日は私のせーしをあげたし…ふふふ、美味しかったでしょ♡」

「人間さんのおちんちんびくびくで思い出してるのわかるよ♡」

「じゃあ、今度はこっちの餌をあげるねー♡」

(ミルクを出しているおっぱいを押し当て、口に含ませるヒロイン)

／位置…正面やや上(胸を押し当てる位置) 近め

「はーい、今日の人間さんの餌だよー♡ 私のおっぱいミルク♡ いっぱい飲んでねー♡」

「ふふふー、ちゃーんとごくごく、するんだよー♡」

「んっ♡ おっぱい、口に含めてえらいねー♡ 勝手にミルク出ちゃうけどー♡」

「ちゅーちゅーって吸ってもいいからねー♡ んあっ♡ ふふふー♡」

「ちゃんと出来てえらいねー♡ どれどれのミルク、たっぷり飲んでねー♡」

「…んー？ あれあれー？」

「人間さん、おちんちん、なんで勃起、しちゃってるのー？」

「私のおっぱい、ちゅーちゅーしたら、気持ちよくなっちゃったのー？」

「ふーん♡ そうなんだねー♡」

「人間さんは、ちよっと横になっちゃおうねー」

（膝枕の体勢で授乳手コキ開始）

／位置…正面 近め

「ふふふー、人間さんのおちんちん、一回精子出してあげるねー♡」

「んっ♡ あ、すごいあついー」

「私の手だと、にやるにやるしてるから、掴んで動かすだけでも、気持ちいいのかなー？」

「あー♡ すごいすごい♡ 手の中でビクン、ビクンってすごく動いてるよー♡」

「おっぱいミルク吸いながら、いっぱい感じちゃってるんだねー♡」

「えらいねー♡ すごいねー♡ 言われたこと、全部素直に聞けるいい子だねー♡」

「あらー♡ もう我慢汁、出てきちゃったねー♡」

「ぬぼぬぼ、ぬぼぬぼ♡ ってされて、すぐにイっちゃいそうになってるのかなー？」

「ふふふー♡ このまま、精子出しちゃおうねー♡」

「おっぱいミルク、いっぱい飲みながらー♡」

「びゅーって出して、気持ちよくなっちゃおう♡」

「あー♡ もうおちんちん、パンパンになってる♡」

「キンタマも上がってきてー♡ もう限界だー♡」

「ほら、出しちゃおう♡ せーし、びゅーって出しちゃえ♡」

「人間さん♡ 精子♡ 出して♡ 出して♡ 出してー♡」

「あっ♡ 出る♡ 精子♡ 出るよ♡ おちんちんの先から♡ 精子♡ もう、出るー

っ！♡♡♡」

（手コキで射精）

／位置…正面 近め

「んー♡ いっぱい出たねー♡ どれどれ？ 味の方はどうかな？」

／演技指示…手に付いた精子を舐め取る感じで

「ちゅっ、ちゅっばっ♡」

「ふふふー、いい感じだねー♡」

「人間さん、卵袋として順調に育ってきてるよー♡」

「この精子ならー、スライムの餌用にもっと出してもいいね♡」

（再度授乳手コキ開始）

／位置…正面 近め

「んっ♡ ふふふー、いっぱいシコシコするねー♡」

「おっぱいミルクも、もっと飲んでー♡」

「今の人間さんのおちんちん、ずーっと元気なままだからー」

「もっと、いっぱい気持ちよくなっちゃおうねー♡ んっ♡」

「んっ♡ もっと、吸っていいよー♡」

「お腹いっぱいになるくらい、おっぱいミルク、ごくごくしようねー♡」

「んっ♡ あっ♡ ふー♡ ふー♡ んんっ♡」

「ふふふー、おちんちん、ずっとビクビクしっぱなしだねー♡」

「また、すぐ精子出せそうだねー♡ じゃあ、出しちゃおうねー♡」

「おちんちんの先から、精子出るよ♡ 気持ちよくなっちゃうよ♡」

「びゅっびゅーって♡ セーし♡ 出して♡ 出して♡ 出してー♡ んんーっ♡♡♡」

（手コキで2度目の射精）

／位置…正面 近め

「あー♡ すごいすごい♡ いっぱい精子出てるよー♡」

「ふふふー♡ 腰浮いちゃうくらい、気持ちいいんだねー♡」

「いっぱい、精子出せて偉いよー♡ まだまだ出そうね♡」

（再度授乳手コキ開始）

／位置…正面 近め

「んんっ♡ ふふふ♡ 言われなくても、自分からおっぱいミルク、ごくごく出来るようになってるねー♡」

「もっと吸っていいんだよ？ もっと気持ちよくなっていいから♡」

「あー♡ おちんちん、震えっぱなしだねー♡ ずっと熱いままだ♡」

「にゅぶにゅぶ、じゅぐじゅぐって、私の手で刺激されて、ずっと気持ちいいねー♡」

「ふふふー♡」

「出た精子がおちんちんにこびりついて、こすれてあわあわになっちゃってるねー♡」

「まだ出せるよねー♡ 精子、いっぱい出しちゃおうねー♡」

「あー♡ すごいすごい♡ おちんちん、パンパン♡」  
「我慢汁もトロトローって垂れっぱなし♡ ふふふー♡」  
「また、精子出ちゃうねー♡ ぬぼぬぼされて、気持ちいいの止まらないねー♡」  
「あー♡ キンタマがまた♡ 上がってきてるよー♡」  
「びゅっびゅーってせーし♡ 出ちゃうねー♡ おちんちんから精子♡ 出せー♡」  
「頭バカになっちゃうくらい、気持ちよくなる♡」  
「出せ♡ 出せ♡ 出せー♡ んっ♡ あっ♡ んんうーっ♡♡♡」

(手コキで3度目の射精)

／位置…正面 近め

「ふー♡ ふー♡ ふー♡ あー、すごい出たねー♡」  
「3回も出たのに、精子の量は全然減ってないの、えらいね♡ ふふふ♡」  
「スライムの餌用になら、これくらいあれば十分かなー♡」  
「いっぱい頑張れて偉いねー♡ すごかったよー♡」  
「…あー、さすがにちよっと疲れちゃった？ 大丈夫、大丈夫♡ 心配なくていいよー」

／位置…正面 近め ↓ 右側 密着 に移動しながら

「ふふ、ふふふふー♡」

／位置…右側 密着

／演技指示…ささやき

「そういうこと、すぐに気にならなくなるからさ♡」

(お腹に違和感を覚えて内股になる主人公)

／位置…正面 近め

「んー？♡ どうしたのかなー？♡」  
「人間さん、お腹がちよっと変な感じー？ もじもじして、もしかして何か漏れそう？」  
「ふふふー♡ 思った通り、順調だよー♡」

／位置…正面 近め ↓ 背面 近め に移動しながら

「ちよーっと確かめるねー♡」

(後ろから抱きしめて持ち上げる形になる)

／＼位置…背面 近め

「人間さん、アナルゼリー出しちゃっていいよー」

「んー？ あー、よく分からない感じー？ えっとねー」

「今ね、人間さんのお腹の中、改造中なんだー♡」

「さっき、いーっぱい飲んでたおっぱいミルク♡」

「あれね、お腹の中で余計なものをゼーんぶ吸収してゼリーにしちゃうんだー」

「うんうん♡ アナルゼリーの準備が出来たから♡」

「人間さんはお腹がぐるぐるしてる？ 感じなんだよねー♡」

「お腹の中で、子どもたちの餌のアナルゼリー、作ってたんだよ」

「ふふふー♡」

「いっぱいおっぱい飲んでたからねー♡」

「結構な量の餌になってると思うんだけどー」

「…んー？ すぐに出そうにない？ あー、そうなのー？」

「おしりに力入れてもダメー？ すぐに出てくると思ったんだけどなー」

／＼位置…背面 近め ↓ 背面下（アナルの位置） 近め

「じゃあ、しょうがないなー」

／＼位置…背面下（アナルの位置） 近め

「私が手伝ってあげるね♡」

（長い舌でアナルを拡張し始めるヒロイン）

／＼位置…背面下（アナルの位置） 近め

「じゅるぐつ、じゅるじゅぶ…んっ♡ ぬりゅうつ、ぬじゅつ、ぬじゅぶりゅうつ」

「じゅつ、じゅりゅりゅつ、むちゅりゅつ、ぬちゅつ、ぬじゅぐつ、ぬりゅつ、ぬりゅちゅぶっ」

「むちゅりゅりゅつ、くちゅつ、ぬちゅぶりゅつ、くつりゅうつ、んっ♡ じゅぶりゅりゅつ」

「んんっ♡ はあ、ふう、ふふふ♡」

「人間さんのアナル、ビクビクって反応しながらー、少しずつ開いてきてる」

「舌の先つちよに、ゼリーちよと当たってるよー♡」

「ちゅつぐつ、んっ♡ じゅるつ、むりゅちゅぶつ、くちゅるつ、ぬちゅつ」

「ずぶりゅつ、じゅぶぐつ、じゅりゅつ、じゅりゅちゅちゅつ、じゅつぐつ、んっ♡」

「んっちゅつ、じゅつ、じゅううつ、じゅぐりゅつ、ぬっじゅつ、ぬじゅぶちゅつ、んんっ♡」

「んはあ…♡ はあ、はあ、はあー♡」

「もう、出ちゃうねー♡ 今、私の長い舌で栓、してる感じになってるよー」

「抜いちゃったら、全部、出ちゃうねー♡」

「ふふふー、じゃあ…舌あ、抜いちゃうねー♡ んっ♡」

「んじゅるっ、じゅっぽんっ！♡」

(耐えきれずに太いアナルゼリーを出し続ける主人公)

／＼位置…正面 近め

／＼演技指示…心の底から嬉しそうな感じで

「あーはー♡ ぶっといほっかほかのアナルゼリー♡ いっぱ出てるねー♡」

「ふふふー♡ ほらほら、自分でも見てみて♡」

「とってもいいアナルゼリーだねー」

「すごい大きいし、子どもたちも大満足♡」

「長さは…キミの身長よりも大きいかな？」

「えらいねー♡ いっぱい出せたねー♡ こんな大きい、お腹に入ってたんだよ？」

「ふふふ、ふふふふー♡」

「じゃあ、いよいよ…卵、入れて行っちゃおうねー」

(産卵管を見せつける)

／＼位置…正面 近め

「んー？ どうしたのー？ これ？ 今から人間さんのアナルに入るやつだよー」

「産卵管、って言っても分かんないと思うけどー♡」

「結構大きいでしょー？ 人間さんの、腕の二倍？ くらいはありそうだよねー♡」

「でも、さっき出しちゃったアナルゼリーよりも長くはないから、大丈夫だよー」

(おしりに産卵管を当てる)

／＼位置…正面 近め

「ふふー♡ もう怖くないよねー？ お尻に産卵管当てても、逃げようとか思わないでしょー？」

「それどころか、アナルがくばくば開いてて…ふふふー♡」

「人間さんも入れられるの、当たり前って思ってるんだよね」

「大丈夫、ゆっくり入れていくからー♡」

／位置…正面 近め ↓ 右側 密着 に移動しながら  
「それにー」

／位置…右側 密着

「人間さんのアナルなら、これくらいの太さの、すんなり受け入れちゃうようになってるから♡」

「何も心配しなくて、いいからねー♡」

／位置…右側 密着 ↓ 正面 近め に移動しながら

「ふふふー♡」

／位置…正面 近め

「じゃあ、入れていくねー」

（産卵管をアナルにゆっくり挿入していく）

／位置…正面 近め

「ふふ、ふふふー♡ あー、いい感じだねー♡ すごいすごい♡」

「どんどん入って行っちゃってるよー」

「さっきアナルゼリー出しちゃったからー、お腹の中、入りやすくなってるんだよねー♡」

「どーお？ お腹の中、ゆっくりだけど、ミチミチって広げられながら、詰まっていく感じ？」

「んー？ 気持ちいい？ そうだねー♡ 今の人間さんならそう感じちゃうだろうねー♡」

「偉いねー♡ とってもいい感じだよー。うふふー♡」

「見た目でも分かるくらい、お腹パンパンになってきてるねー♡」

「痛いとか、全然ないでしょー？ ふわふわしてきて、気持ちよくなってるんだよねー♡」

「あはー♡ ちょっと戸惑ってるー？ うんうん、人間さんの身体、そういう風になるようにしたからねー♡」

「ふふ♡ 中に、卵、産んでいくね♡」

（ポコポコと卵を一つづつ主人公の体内に植え付けていく）

／位置…正面 近め

「んっ♡ ふふ、ふふふー♡」

「今ねー？ 人間さんの身体の中にー、一個づつ、ゆーっくり、植え付けていってるよー♡」

「とーっても暖かくて、いい感じ♡ あー♡ ビクってしたね」

「もう人間の身体はちゃんんと、全部、受け入れてるよー♡」

「んっ♡ はー、ふー♡ ふふ、ふふふふ…♡」

「あは♡ できたできた。私だけの卵袋♡ 人間さん、すっごい素敵♡」

「スライムみたいにぷっくり膨れてるねー♡ 大丈夫、大丈夫♡」

「人間さんはもう完全に卵袋になっちゃったから♡♡」

「ふふふー♡ お腹の中、動いてるー？♡」

「中に入った卵がぶにゅぶにゅ、むぎゅむぎゅって動いてるんだよー♡」

「ねー♡ 幸せだよねー♡ 私の♡ 私だけの卵袋ー♡♡ ふふ、ふふふふー♡」

／位置…正面 近め

「んー？♡ あれあれー？」

「人間さん、まだ残ってるみたいだねー」

「ふふふー♡ まだ、そんなことできたんだー、ふーん♡」

／位置…正面 近め ↓ 背面 近め に移動しながら

「じゃー」

／位置…背面 近め

「ちゃんしないと、ダメだねー♡」

（背後から抱き上げ）

／位置…背面 近め ↓ 右側 密着 に移動しながら

「ふふふー♡ 人間さん？」

（脳みそクチュクチュ耳なめ）

／位置…右側 密着

「自分のことより、もっと私のこととだけー、考えるようにしようねー♡」

／位置…右側 密着（両方）

「ちゅるぐっ、ちゅぶっ、ぬちゅぐりゅっ、ぐじゅぶっ、んっ♡ じゅぶじゅるっ」

「くちゅっ、くちゅぷりゅっ、ぬちゅぷちゅぷりゅっ、ぬじゅぶっ、じゅぶぐちゅっ」

／位置…右側 密着



「んあ♡ はー、はー、はー♡」

「人間さんのおちんちん、勃起したまま戻らなくなったねー♡」

「私も、ふたなりチンポでケツまんこ、いっぱいぬぶぬぶしてあげるー♡」

「脳みそくちゅくちゅされながら♡ ふたなりチンポでいっぱい犯してあげるからー♡」

「人間さんも、いっぱい精子、出しているからねー♡ んっ♡」

（ふたなりチンポでアナルセックス+脳みそくちゅくちゅ耳なめ継続）

／位置…右側 密着（両方）

「ぬちゅぶっ、じゅぶぐちゅっ、ぬりゅぬちゅちゅっ、くちゅぶりゅっ、ぬちゅぶっ」

「くちゅっ、くちゅくちゅぶっ、くちゅりゅっ、ぬちゅぶちゅぶりゅっ、じゅぶぶぶっ」

「ん♡ ぬじゅっ、ぬじゅぶちゅっ、んっ♡ じゅぐぶりゅっ、ぐっじゅっ、じゅぶりゅっ」

「んあっ♡ はー、はー、んふふー♡」

「じゅっぶっ、じゅるじゅぶっ、ぬちゅぶちゅじゅぶっ、じゅぶじゅぶじゅっ、くちゅるっ」

「んっ♡ じゅっぶっ、ぐじゅぶちゅっ、ぬちゅぬちゅぬちゅっ、ぬりゅりゅっ」

「じゅぶりゅっ、じゅむじゅりゅっ、じゅぶんっ、んっ♡ じゅむちゅちゅっ、くじゅっ」

「じゅっ、じゅっじゅっ、じゅぶじゅちゅっ、ぬじゅむちゅぶりゅっ、じゅぶぐちゅっ」

／位置…右側 密着

「んー♡ はー、はー、はー、人間さんのケツまんこ、すっごい気持ちいい♡」

「このままいっぱい種付けしちゃうねー♡ じゅっぐっ、じゅるっ、んっ♡」

「ふふふー♡ きっと、いい子がたくさん産まれるよー♡ んっ、んんっ♡」

（ピストン速度アップ）

／位置…右側 密着

「んっ、んんっ♡ あーっ♡ すっごい締付けだー♡ 人間さんの身体、すっごいよー♡」

「んあっ♡ 私の精子、いっぱい欲しいんだねー♡ かわいいねー♡」

「ずぶずぶ、ぬぶぬぶっ、突きまくってー♡ 人間さんも、イっちゃいそうになるところも♡」

「最高にかわいいねー♡ 頭の中もー、ケツまんこもー♡」

「いっぱいかき回してあげるねー♡ じゅるじゅぶっ」

（脳みそくちゅくちゅメイン）

／位置…右側 密着（両方）

「ぬじゅぶっ、じゅっぶっ、じゅるぐじゅぶりゅっ、ぬちゅじゅぶっ、ぬじゅぶりゅっ」  
「んっ♡ ぐじゅぶちゅっ、むじゅりゅりゅっ、んじゅぶちゅっ、くちゅくちゅくちゅっ」  
「んんっ♡ くちゅぶりゅっ、ぶちゅりゅぶちゅりゅぶちゅりゅっ、んんっ♡」

(ラストスパート、ピストンメイン)

／位置…右側 密着

「ああ♡ ケツまんこ♡ きもちいい♡ きもちいい♡」  
「人間さん♡ すっごい♡ んっ♡ 私の、卵袋♡ 最高に、素敵い♡」  
「んんっ♡ このままー、中にー♡ 精子出すねー♡ もう、出ちゃうからー♡」  
「んんあっ♡ いっぱい、いい子産むためにっ、んあっ♡ 全部、ちゃんと、受け止めてねー♡」

「はー♡ はー♡ んんっ♡ ふふ、ふふふっ♡ ああっ♡ もうっ、出るっ♡」  
「精子っ♡ 出るっ♡ 出るっ♡ でるうううっ！…！♡♡ んんうっっ！…！♡♡♡♡」

(アナル中出し射精、主人公もところてん射精)

／位置…右側 密着

「あー♡ すっごいー♡ んっ…はー♡ はー♡ いっぱい、出ちゃったー♡」  
「ふふふー♡ 人間さんも、震えながら、射精、しちゃったねー♡」  
「中出しされて、気持ちよくなっちゃったから、しょうがないねー♡」  
「んっ♡ はー♡ はー♡ はー♡」

「なんかー、一回じゃおさまりそうにないから、もっといっぱい、中出し、しちゃうねー♡」

(授乳しながらピストン継続)

／位置…正面やや上(胸を押し当てる位置) 近め

「人間さんは、おっぱいミルク飲みながら、ただ犯されてればいいからねー♡」  
「んっ♡ いっぱい、吸って、栄養蓄えようねー♡」  
「んっ♡ ああ♡ いいねー♡ んっ♡ はー、はー、はー、あうっ♡」  
「締め付けすっごい強いから、んっ♡ またすぐに、精子出ちゃいそうだよー」  
「んっ♡ はー、はー、んんっ♡」  
「おっぱいミルク、いっぱい飲んで、いい子、たくさん産んでねー♡ んっ♡」  
「人間さんのお腹、私の精子とおっぱいミルクで、いい子をたくさん産めるようにしてあげるからー♡」

「んっ♡ はー♡ はー♡ あっ、ううっ♡ くっ♡ んんっ♡」

「気持ちいいの、止まなくて、なっちゃった…んっ♡ あー♡ また精子、出るっ♡♡」  
「一滴も、零さないからー♡ んんっ！♡ 全部、人間さんの、ケツまんこにっ♡ 出すか  
ら♡♡」

「あっ♡ んっ！ んんっ！ 出るっ♡ 出るううっ！！♡♡ んんうううっつ！！！！  
♡♡♡」

（主人公を抱きしめながらアナル中出し射精）

／位置…正面やや上（胸を押し当てる位置） 近め

「はー♡ はー♡ ふー♡ ふふ、ふふふふー♡」

「また、いっぱい出しちゃった…♡」

「人間さんのお腹、パンパンだったにねー♡ まだまだ入っちゃうんだ♡」

「ふふふ、じゃあ、今日は私が満足するまでー」

「いっぱい犯してあげるねー♡ ふふ、人間さんのこと、ずーっと気持ちいいままにしてあげるんだー♡」

「んっ♡ はあ、はあ、はあ、もっと精子、出してあげるね♡」

「ふふ、ふふふー♡」